

# BSE検査

牛海綿状脳症(BSE)は、異常プリオンと呼ばれる感染性を有するタンパク質が牛の脳に蓄積し、脳がスポンジ状になる病気です。BSEに感染した牛は起立不能などの神経症状を呈し、最終的には死に至ります。人の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病はBSE感染牛を摂食することにより感染・発症するとされています。平成29年4月1日から、生後24か月齢以上の牛のうち、生体検査において、原因不明の運動障害、知覚障害、反射異常、意識障害等の何らかの神経症状又は全身症状(事故による骨折、関節炎、熱射病等による起立不能等症状の原因が明らかな牛は除く。)を示す牛については、BSEスクリーニング検査を実施します。

## ～ BSE検査のながれ ～



延髄の採取

えんずい  
①延髄の採取  
牛の頭部から延髄を採取します。

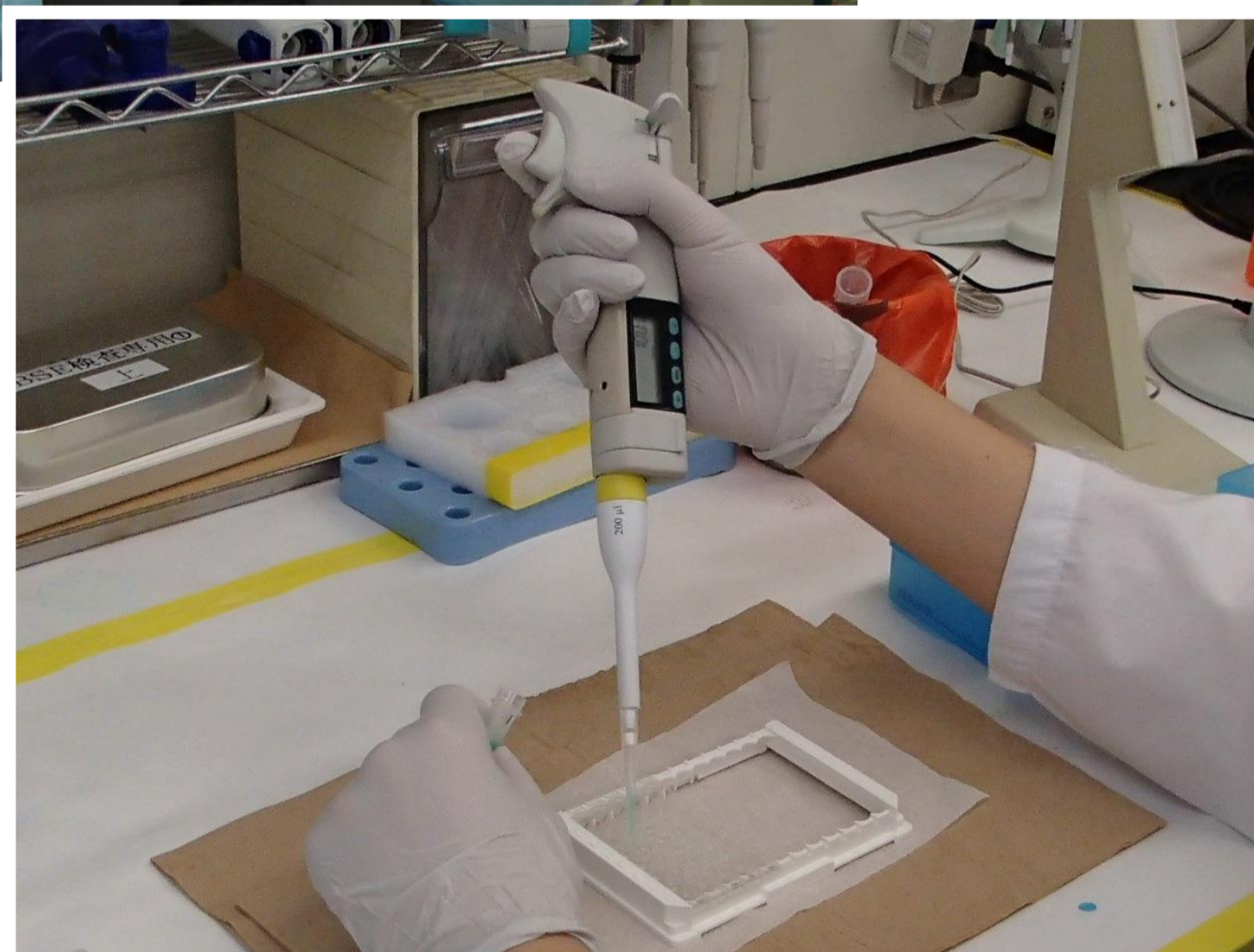
かんぬき  
②延髄門部の採材  
採材した延髄から異常プリオン蛋白が蓄積しやすい門部を採材します。



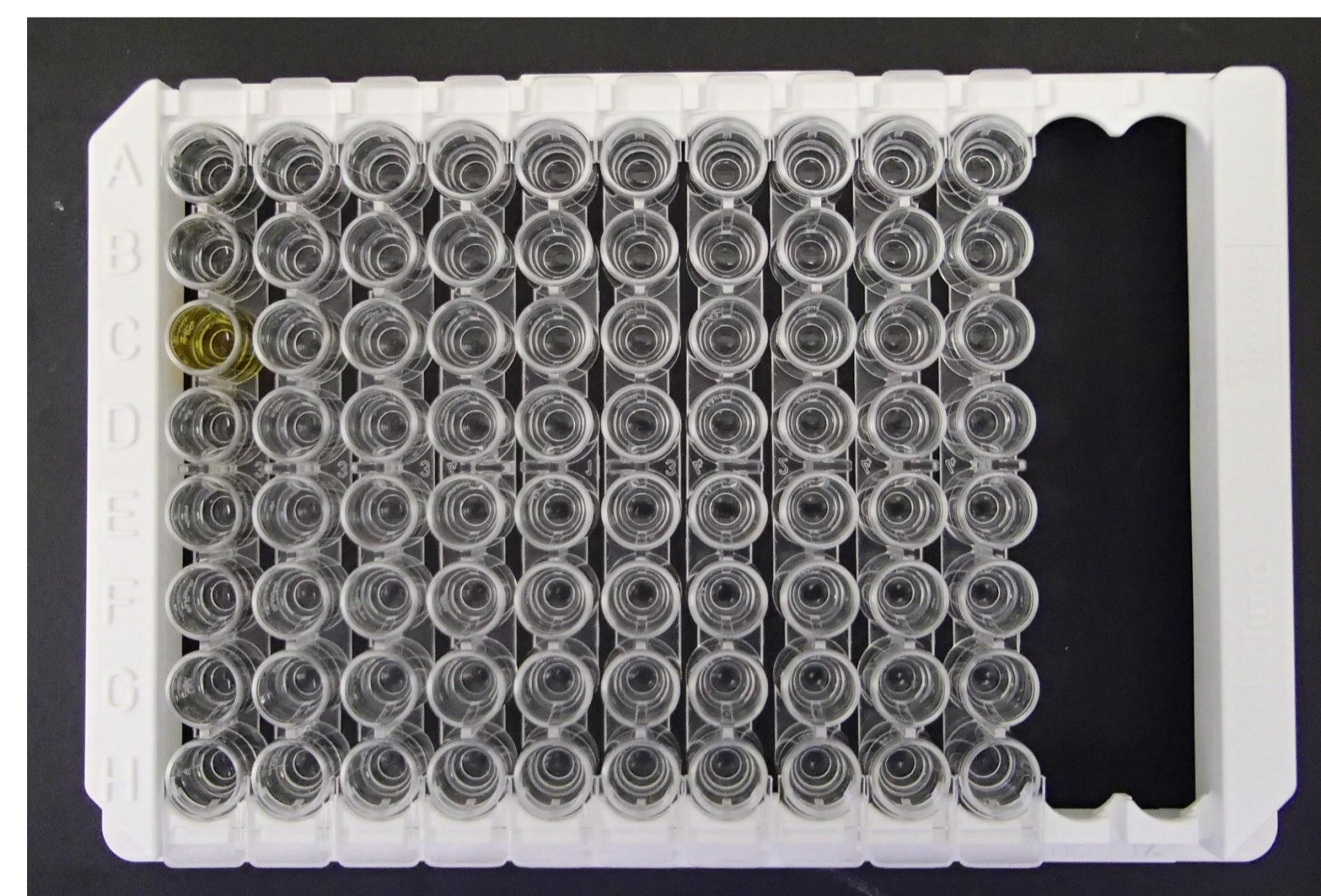
門部

牛の延髄

③ELISA法によるスクリーニング検査  
異常プリオンを検出します。



合格



発色の有無による判定

不合格

不合格の場合は再度ELISA法による検査を行います。2回目の検査でも不合格の場合、国の検査機関でより精密な検査を実施します。

検査に合格した牛肉だけが市場に流通します